



1. あじさい散歩。ワンちゃんも気持ちよさそう / 2. 話が弾む二人。あじさいの魅力以外にも楽しさいっぱい / 3. まつりにあわせて手芸品を販売。お土産品はどれにしようかな… / 4. 市外から撮影に。きれいなあじさいは写真映えもバッチリ【場所】 1、3…月舘町糠田 / 2、4…霊山町徳が森

「梅雨に彩りをあじさいまつり」

7月1日㊥、2日㊦は、約4,000本のあじさいが並ぶ月舘町糠田の「あじさい小径まつり」、約40種のあじさいを見ることが出来る霊山町山野川の「徳が森アジサイまつり」が開催されました。色彩豊かに咲き誇るあじさいが梅雨に彩りを与え、来場者は品種や咲く場所によって濃淡や咲き方が違うあじさいの魅力を十分に満喫しました。撮影やウォーキングをして、各々今しか見られない風景と、出店に並ぶ花苗やおいしい食べ物、お土産品選びも併せて楽しみました。



市長コラム 第56回

「生成AIについて」

黒田博行

最近の技術革新は目を見張るものがあります。その代表とされるのがチャットGPT^{ジェネレーター}などの生成人工知能(生成AI)の誕生です。

従来はAIは、学習済みのデータの中から適切な回答を探して提示する人工知能でしたが、生成AIはあらかじめ学習したデータをもとに、文章や画像、音楽、デザインなどを新たに作成する人工知能のことです。

例えば、生成AIに向かって「あなたは伊達市役所の職員です。新入職員へのあいさつを1000文字程度で公務員倫理という言葉を入れて考えてください。」と命令すると、ほんの数秒後には、「新入職員への皆様へ ようこそ伊達市役所へ。公務員倫理を心に市民のために尽力しましょう。地域の発展に貢献する使命を胸に、協力と信頼を大切に一緒に頑張りましょう！」おめでとうございませう」とちよっとごちない文章だけで回答してくれます。なん

と便利なことかと思えますが、気持ちは伝わってきませんね。定型的なあいさつ文や報告書を作成する際の参考にはなっても、自分の想いを伝えるコラムや感想文には向かないし、それを使って作った文章にはなんの意味もないと思います。

とは言っても、私は生成AIを否定しているわけではありません。むしろ積極的に活用すべきだと思います。これまで人類は、技術革新を積極的に取り入れ進歩してきました。昔コンピュータが導入されたとき、人々は「自分の仕事が取って代わられるのでは」と案じていましたが、今やあらゆる分野で不可欠なツールとなっています。

生成AIについても使うのは人間であり、出されたコンテンツ(文章や画像など)の有効性や信ぴょう性を確認する能力をしっかりと備えることで、人類にとって有効なツールになると考えています。